

項目	内容
名称	大豆オリゴ糖 [英]Soya-oligosaccharide [学名]Soya-oligosaccharide
概要	大豆オリゴ糖は、大豆から水で抽出したときに含まれる各種の少糖類（スタキオース、ラフィノース、シヨ糖等が主成分）の総称であり、他のマメ科植物などにも比較的多く含まれる。代表的な大豆オリゴ糖はスタキオースとラフィノースであり、甘味度は砂糖の70%である。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <p>「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」にも該当しない。</p> <p>■ 特定保健用食品</p> <ul style="list-style-type: none">大豆オリゴ糖を関与成分とし「おなかの調子を整える」保健用途の表示ができる特定保健用食品が許可されている。特定保健用食品（規格基準型）として大豆オリゴ糖（1日摂取目安量：2～6 g）の保健用途表示は「大豆オリゴ糖が含まれておりビフィズス菌を増やして腸内の環境を良好に保つので、おなかの調子を整えます」。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	大豆オリゴ糖は、大豆から油脂・タンパク質を除いたものを原料とし、そこから分離・精製して得られる。
分析法	示差屈折計を装着したHPLC法により分析されている（101）。

有効性	
循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常習便秘患者20名(17~84歳)を対象に、大豆オリゴ糖を1日9g、4週間摂取させたところ、便秘の症状が改善した(1991091301)。 ・健康な成人7名(21~52歳)を対象に、マンニトリオース(大豆オリゴ糖)粉末を1日3g、7日間摂取させたところ、糞便中のビフィズス菌が増加し、クロストリジウム菌が減少、糞便アンモニアが低下傾向を示し、糞便pHは変化しなかったという予備的な報告がある(1993246296)。この現象についてはさらなる検証が必要である。 ・健康な成人9名(21~45歳)に、大豆由来オリゴ糖をスタキオースとラフィノース換算量で0.5~2.0g、3週間ずつ摂取させて腸内フローラを調べたところ、総菌数に占めるビフィズス菌の割合は0.5gおよび2.0g摂取した条件で増加傾向を認め、腸内細菌科の細菌は2.0g摂取したときに減少傾向を認めた(1993104784)。※腸内細菌科=大腸菌・サルモネラ菌・赤痢菌などが属するグループのこと。
ヒトでの評価	
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	<p>(101) (公財) 日本健康・栄養食品協会 特定保健用食品試験検査マニュアル(30)「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)(1991091301) 臨牀と研究. 1990;67(10):3264-70. (1993246296) 日本栄養・食糧学会誌. 1991;44(3):171-6. (1993104784) ビフィズス. 1991;5(1):51-4. (103) 別添3 特定保健用食品(規格基準型)制度における規格基準</p>